



第52回岡山県子ども大会(表彰式)

令和5年度定期総会 開催

令和5年6月18日(日)



第 85 号

発行所

岡山県子ども会連合会

広報部

700-0807 岡山市北区南方 2-13-1

岡山県福祉・ボランティア・NPO 会館

<http://www.kodomokai.or.jp/okayama/>

TEL (086) 226 - 1261

FAX (086) 226 - 1303

発行令和7年2月

第52回(令和5年度)子ども大会(表彰式)・定期総会が岡山県総合福祉・ボランティア・NPO会館「きらめきプラザ」において開催されました。浅原会長の挨拶の後、長年の活動を讃えて団体・個人の方に表彰状が授与されました。

岡山県子ども会連合会会長
(公社)岡山県青少年育成県民会議
会長表彰

子ども会

吉見子ども会 (津山市)
爪崎子ども会 (倉敷市)
北川子ども会 (倉敷市)

岡山県子ども会連合会会長感謝状
武縄良一 (倉敷市)
岡本健二 (倉敷市)



昨年新聞の発行が出来なかったのでここに
5年度の表彰者を載せました。
次のページから、6年度を掲載します。

第53回岡山県子ども大会（表彰式）

令和6年度定期総会 開催

令和6年6月16日

きらめきプラザ於いて、

岡山県青少年育成県民会議副会長

北川 歳昭 様

岡山県教育庁生涯学習課副課長

佐野 俊貴 様

岡山県教育庁生涯学習課主幹

畦田 真介 様

岡山県子ども会連合会顧問

赤澤 正基 様

の御来賓をお迎えして、第53回（令和6年度）子ども大会（表彰式）・定期総会が開催されました。浅原会長の挨拶の後、長年の活動を讃えて団体・個人のみなさんに表彰状が授与されました。

岡山県子ども会連合会会長

（公社）岡山県青少年育成県民会議会長

表彰

子ども会

両川尻子ども会

（倉敷市）

道口東子ども会

（倉敷市）

クリーン三ツ葉子ども会

（倉敷市）

岡山県子ども会連合会会長感謝状

子ども会育成指導者・ジュニアリーダー

西井聡子

（倉敷市）

福岡 恵

（倉敷市）

久常昌義

（津山市）

香西海斗（JL）

（倉敷市）





その後、定期総会が開催され、令和五年度の事業報告・決算報告が行われ、令和六年度の事業計画・予算及び活動方針が発表されました。

令和6年度専門部部員名

JL育成部

部長 岡田 進
部員 影山忠孝
三宅由子
樋口陽子
安原茂樹
山口省吾
浅原義大
荒尾さよ子

安全・研修部

S代表 片田直和

部長 吉田清二
副部長 梶原 仁
部員 小野孝美
松本佑太
藤野 茂
神崎 仁
山下恵美
長谷 茂
西田洋文
佐藤 聡

広報部

部長 石黒誠
副部長 中谷昌明
部員 米戸巴
広畑 基

KYT 登山

令和5年10月14日(土)
KYT 登山 in 毛無山



齊藤靖知
河本一二
安藤彰英
河原 素
岩本浩美

次ページより6年度のKYT登山紹介します。

令和 6 年度 KVT 登山

今年は10月12日(土) 県北蒜山三山の一つ、下蒜山(一、一〇五m)に登山することになった。

朝、犬狹峠の登山口駐車場に集合して、
いぬばさり



浅原会長の挨拶を聞き、



準備運動をして、



腰痛持ちの石黒副会長も腰ベルトをし、二人の留守居を残して・・・



8時半、頂上を目指して出発する。



8時45分、頂上まで1時間40分の看板のところで休憩をする。



小休止の後、出発をする。



まだまだ余裕の笑い・・・。





出発してから30分、疲れが出始めたので一歩一歩登る。



しかし、何かしら長い階段が目についた。



疲れ顔・・・。

登山のスペシャリストの県子連前会長でも



ピースをする余裕も出てきた。



・・・で、階段を過ぎて皆さん安心。



普通の山道を会話しながら登っていく。



出発してから40分、三合目を通過、



鎖を持たなければならぬほどの坂を必死で登る。
何とか五合目に到着。



何かしら足元が悪くなり、



はるか彼方に頂上が見える。あそこまでかと元気をもらい、



秋めいた爽やかな風が頬に感じながら開けた高原にホッとして小休止。



10時10分、七合目の看板を通過。



あと40分の看板を見ながら進む。

写真。

頂上に着き、そこでKYTの座学と集合



あと少しで頂上・・・。
雲に隠れた大山を望みながら、



出発して1時間、九合目着。



今年の参加者は、いつもより多いでしょう。



遙かかなたの望遠で撮った駐車場。
あくあ、来たからにはあそこまで帰らなくてはいけないのかあ・・・。



昼食をして12時半下山に向かう。



写真を撮っている間にやや遅れてしまつて、追いつこうと頑張つて13時10分、五合目まで到着。



「あつ、危ない・・・滑つた。」



登りの時に苦勞した鎖のある坂を下る。これまた大変だ!!



何とかケガすることなく階段の道に差し掛かる。

・・・で、登山の話は終わりです。



腰痛の石黒副会長も無事に下山。



振り返ってみよう「子ども大会」

「第51回子ども大会イン美作」

50回を高梁市で、51回が美作市の担当となり令和5年2月4日、開催されました。

昔から開催されていた風あげ大会と同時の会場の美作市野球場で行いました。



子ども大会の行事は、マンカラとラダーゲッターです。



「第52回子ども大会イン早島」

令和5年11月5日、早島町にて第52回子ども大会が早島町中央公民館で開催されました。

県子連の田中理事の指導もとバルーンアートを開催。



隣の教室では、ラダーゲッターとドッジビーを開催しました。



「第53回子ども大会イン倉敷」
令和6年12月8日(日)、倉敷市健康福祉プラザにて、53回子ども大会が行われました。

ドッジビーディスク投げをして、

ディスクの投げ方を練習し、ニュースポーツである「アルティメット」の試合を学びました。
フライングディスク協会の役員と環太平洋大学の学生の指導の下、ドッジビーディスクを使った「アルティメット」を体験しました。



2024 桃太郎ミステリー列車

9月14日～15日に数年ぶりの「桃太郎ミステリー列車」が行われました。



このミステリー列車は、県内の小学4年生から6年生を対象に小学生40名、育成者10名が参加しました。14日朝8時、岡山駅集合し受付を終わらせ、班ごとに分かれ、保護者の見守る中、短めの開会式を行った後、一般車両の待つホームへ移動しました。

しばらくすると、ホームに私たちの乗り込む車両が入ってきました。受付時に割り当てられた座席番号へ順番に乗り込みました。

ほぼ貸し切り（予約車両）状態でした。しばらくして車両が動き出しました。



走り出したミステリー列車の中で、各班での自己紹介が始まり、そこそこ終わったところで、おやつ時間が始まりしました。



列車の行先や、停車駅、車内アナウンスに耳を傾けている児童、おかしな交換をしている児童、各班に配置された育成者に行先や、これから何が起こるかなど、質問攻めをしている児童、それぞれが最初の到着地までの時間を楽しんでいました。



今回のミステリー列車は、四つの体験が待っていました。

まず一つ目の体験は、「手打ちうどんづくり」です。

一般的なうどん体験とは違い、うどんのイロハを学んだ、一通りの説明を受けた後、用意された前掛けを装着し、

用意された生地を伸ばすところから始まります。



まずは、音楽に合わせて、生地を足で踏み広げます。思ったようには広がらず、同じチー



ムとなった児童同士で、アイデア出し合い、生地をある程度伸ばします。

続いて、麺棒で生地を押し伸ばし、先生が用意した見本を見ながら包丁を入れていきます。

それぞれ、いろいろな長さ、太さのうどんが出来上がりました。

そのあと、生地作りの体験も行いました。

時間的に、昼の時間となり、先ほど伸ばして切ったうどんをゆでて食べることができる食堂(?)へ移動しました。

そこには、うどんをゆでるための鍋

と、出汁の

入った器が
用意されて
いました。

早速、鍋

に火を入れ、

自分たちで

切ったうどん

ん湯がし、

熱々をどん

ぶりへ取り分け、つけダレで頂きました。



思いのほか熱くて苦戦しているようでした。

味はおいしかったです。

急ぎ足で、昼食を済ませ、二つ目の

体験、「和三盆菓子作り」の場所へ徒歩

で移動しました。

テーブルには、和三盆用の砂糖、木



型、作った和三盆を入れる箱が準備されていました。



和三盆

の原料の

話から作

り方の説

明を一通

り受け、

和三盆の

製作に入

りました。

思った

以上に型

に砂糖を

押し込む作業が難しく、思ったように

型から外れなかったり、形にならな

ったりしました。

型はたくさん用意されており、他の

友だちが使っていた型を交換するな

どして、お互いの作品(お菓子)を見

比べていました。

お菓子作りを進める中で、うまくい

かない友だちに、こうしたらいいよ、

などアドバイスして仲良くなってい

った様子がうかがえました。

和三盆の指導をして頂いた先生へ

の挨拶もそこに、次の体験場所へ

移動しました。

三つ目の体験は、「手ひねり」です。

先生の一通りの説明を受けてから、

マグカップを製作しました。



出来上がりを想像しながら、いろいろなスタンプ(型)を押し付けたり、取っ手を取り付けたり、カップの高さを変えたりなどして、それぞれのマグカップが出来上がりました。

窯入れの体験はないので、焼き上が



ったものを後日(数週間後)郵送して頂けるといことなので、完成したものがどんな風になるかを楽しみにしているようでした。

怒涛の体験ののち、宿泊場所(屋島少年自然の家)へバスを走らせました。本施設でのオリエンテーションを済ませ、宿泊棟へ移動。



夕食終了後、キャンプファイアがあり、シニアー、リーダーと、育成者を中心に、レク（ゲーム）を1時間ほどして汗を流しました。入浴を済ませ、一日目が終わりました。



ベッドは個別に用意されていましたが、泊まる部屋は、大部屋になっており、普段とは違う環境なので少し戸惑っていたようでしたが、すぐに慣れ、「俺ここ」、「ぼくはこっち」と自分の寝床を決めていました。



二日目、最後の体験「いかだ活動」が始まりました。
いかだ活動当日、天気がすぐれなかったが（予報だと雨）、活動できるとのこと、まず、水着に着替えて、本施設の近くにある砂浜へと移動しました。

砂浜で少年自然の家の「先生」から「いかだ」つくりを一通り説明を聞いた後、班ごとに分かれ「いかだ」の製作をしました。
ブイ（ウキ）の配置場所、垂木の位置に注意して、垂木とブイの結束し、ベニア板を取り付けました。
思った以上に時間がかかったようです。



完成した「いかだ」をみんなで波打ち際まで運び、順番に「いかだ」に乗り込んで数メートル沖まで出しました。

先生の指導のもと、「一」、「二」と声をそろえ、オールを操作し、目標地点



班の中で役割分担ができ、片付け（着替えも含み）までがスムーズに進みました。
一人も欠けることなく、けが人もなく活動を終了することができました。
移動のバスは「屋島水族館」にも立ち寄り、



まで移動することができました。
時間が押し迫っていたため、体験活動（沖へ出る時間）が短くなつてしまいましたが、いつの間にか



また念願の「お土産」購入を済ませ、帰りのバスに乗り込み、高松駅へ。移動中のバスで、次の「ミステリー列車」への参加をアナウンスしたところ、4年生、5年生からは「次も行く(来る)!!」との返事。

6年生は「来年は中学生だから…」と言う声も聞かれました。

育成者から、「ジュニアリーダー」になつたら、「お兄さん、お姉さん」として参加できるよという話をしたところ、「そうなん？」と、うれしい反応もありました。

今回の「ミステリー列車」は、これまでより人数が少ない分、育成者の目が行き届いたように見えました。

活動班も特に促すわけではなく、自然とお互いを助け合うことができたように感じました。

(広報部 河本一二)



あの町この町
子ども会の紹介



■ 玉野市子ども会連絡協議会
令和 4 年 8 月 9 日
「子ども体験」



令和 5 年 2 月 23 日



■ 美作市子ども会連合会
令和 5 年 12 月 23 日
「美作市子どもフェスティバル」





■ 津山市子ども会連合会
令和 4 年 8 月 21 日
「デイキャンプ」





私は、会長の浅原です。
ガオー!!

ティラノサウルスレース



倉敷市子ども会連合会
令和 7 年 2 月 2 日
「倉敷市子どもまつり」

津山市の「野外塾」の子どもたちとコラボして県子連ジュニアリーダー研修会を開催しました。
流しそうめんをして、そのあとテント張りをして近くの川に降りてニジマスつかみ取りをして夕食はバーベキューをし、キャンプファイアを行い、就寝しました。
次の日の朝食は、手作りサラダ、サン

令和 5 年 8 月 5 日

黒木キャンプ場イン津山市

ジュニアリーダー研修会



ドイツを作り、そのあと木工工作でキーホルダーをつくり楽しく学びの研修会を終了しました。

あとがき

今までにない酷暑と極寒の冬を迎えました。が、日一日と春の音が聞こえてきています。岡山県子連においてもコロナ禍のため多くの行事が中止となり、ここ五年間の行事を一度に報告することになりました。

わが国においても「議員連盟設立総会」を立ち上げて子ども会に力を入れてくれているようです。また、津山市出身のあべ俊子先生も文部科学大臣に就任され、子どもたちのことを気にかけていることと思われます。期待に沿えるよう県内の子ども会の方々も頑張らしましょう。

広報部

以上

